

---

# 大腸がん検診



く、次いで40～49歳が多かった。女性は30～39歳が最も多く、次いで50～59歳が多かった。

郵送法検体と一部の住民健診における総受診者数は、男性2,519人、女性2,725人の計5,244人であった。要精密検査対象者数は男性、女性ともに50～59歳が最も多く、次いで男性では40～49歳が多かった。女性は40～49歳と60～69歳が多かった。

表2は、便潜血反応検査における年度別、陽性率および大腸がん発見数を示した。2001年度から2005年度の陽性率はIG法では5.0～6.8%、平均陽性率は6.0%であった。2005年度において、総受診者数37,588人のうち、陽性者数2,538人で陽性率6.8%と2004年度よりも1.8%と大幅に上昇した。これは、1998年より使用してきた全自動便潜血免疫分析装置の老朽化に伴い、2005年度より新たに試薬の保冷器が設置された新しい分析装置を導入したことにより、試薬をより安定した状態で保存できるようになったこと、また採便容器の保存液が改良され、保存安定性が改善されたことなどが陽性率にも影響したと考えられる。OC法では、5年間の陽性率は4.0～6.2%、平均陽性率は5.0%であった。総受診者数5,244人のうち、陽性者数230人で、陽性率4.4%と、2004年度より0.4%上昇したが大きな変化はなかった。

追跡率はIG法、OC法いずれも低く、がん発見数についてはあくまでも参考値として掲載した。

本会では、便潜血反応検査陽性者の方に、11施設の提携先医療機関を紹介し、精密検査の受診結果を受け取るシステムを導入しているが、紹介した医療機関とは別の施設で精密検査を受診されるケースや精密検査を必要とされたにもかかわらず受診されないケースなどあり、精密検査結果の追跡が不十分な場合が多い。

表3、表4は2001年度から2005年度までの5年間に本会より提携先医療機関へ紹介し、精密検査を受診された方の検査結果を診断結果別にIG法とOC法で

表2 便潜血反応検査における年度別陽性率および大腸がん発見数

(2001～2005年度)

IG オートHem法 (免疫比色法)						
年 度	便 潜 血 反 応 検 査			結 果 報 告 書		
	実施人数	陽性数	陽性率 (%)	追跡可能数	追跡率 (%)	がん発見数
2001	42,914	2,667	6.2	146	5.5	1
2002	44,562	2,576	5.8	220	8.5	9
2003	35,842	2,139	6.0	139	6.5	4
2004	37,275	1,869	5.0	115	6.2	5
2005	37,588	2,538	6.8	162	6.4	2

注 追跡率；追跡可能数/陽性数×100

OC法 (免疫比濁法)						
年 度	便 潜 血 反 応 検 査			結 果 報 告 書		
	実施人数	陽性数	陽性率 (%)	追跡可能数	追跡率 (%)	がん発見数
2001	1,553	96	6.2	12	12.5	0
2002	4,506	240	5.3	32	13.3	0
2003	5,442	284	5.2	33	11.6	4
2004	5,098	205	4.0	24	11.7	2
2005	5,244	230	4.4	18	7.8	1

注 追跡率；追跡可能数/陽性数×100

それぞれまとめたものである。IG法、OC法ともに大腸ポリープが最も多く、そのなかには高度異型を示したポリープも発見されている。大腸がんは小さな良性ポリープから始まり、ポリープの発育過程でがんとなり、やがて進行がんが発育するといわれているものもある。大腸がんの発見はもとより大腸ポリープの早期発見を含め、要精密検査となった方の精密検査の受診をお勧めしたい。そのほかの診断結果では痔が多く、次いで大腸憩室症、大腸炎の順であった。

2005年3月に厚生労働省から有効性評価に基づく大腸がん検診ガイドラインが公表され、そのなかでも大腸がんスクリーニングの精度管理の推進をうたっている。今後も便潜血反応検査の有効性評価ができるように追跡率を高め、大腸がんスクリーニングの精度を向上させていきたい。

(文責 森 郁子)

表3 便潜血反応検査 (IG法) における陽性者の精密検査診断結果

(2001～2005年度)

年度	性別	精密検査の診断結果														計
		大腸がん	大腸高度異型	ポリープ 良型	カルチノイド	大腸粘膜腫瘍	腸ポリープ	門	リンパ濾胞増殖症	大腸憩室症	大腸炎	大腸憩室症+	腸憩室症+	大腸炎+	痔	
2001	男	1	2	72						1	3	2	1	3	27	112
	女			14						1	2			3	14	34
2002	男	7	5	101				1	7	8	2		9	43	183	
	女	2	1	14					3	2			2	13	37	
2003	男	3	3	57		1	1		5	5			3	33	92	
	女	1		11									1	15	28	
2004	男	5	3	35		2			5	2			3	35	92	
	女			9						2			4	8	23	
2005	男	2	1	67					9	4			9	35	128	
	女			14						2			2	16	34	
計		21	15	394	0	3	1	1	31	30	4	1	39	239	3	763

表4 便潜血反応検査 (OC法) における陽性者の精密検査診断結果

(2001～2005年度)

年度	性別	精密検査の診断結果															計
		大腸がん	大腸高度異型	ポリープ 良型	カルチノイド	大腸粘膜腫瘍	腸ポリープ	門	黒皮症	大腸憩室症	大腸炎	大腸憩室症+	腸憩室症+	大腸炎+	痔	異常なし	
2001	男		1	6					1					1	3	12	
	女															0	
2002	男		1	5				1		2				1	3	9	
	女		1	10											8	23	
2003	男	3	1	14											2	20	
	女	1		5											7	13	
2004	男	1		4					1					1	1	8	
	女	1		8						1					4	16	
2005	男			6										1	1	8	
	女	1		4	1										4	10	
計		7	4	62	1	0	0	1	2	3	0	0	4	33	2	119	